

瀬戸内タウンミーティング（玉津地区）

平成 24 年 10 月 22 日（月）午後 7 時～午後 9 時

玉津コミュニティセンター 大講座室

参加者：男性 19 人、女性 7 人、計 26 人

意見交換

- ・メガソーラーがらみで、市民が事業を立ち上げるときに市がフォローしてくれるのか？市が仲介して IBM などと橋渡ししてくれるのか。

（市長）下請けには市内事業者が入れるようお願いしていく。こんなこと（事業、サービス）が錦海付近で必要になるのでは、というアイデアがあれば、ぜひ情報をいただきたい。錦海プロジェクト推進課が窓口になると思う。ただし、事業アイデアに対して市がお墨付きをつけるようなことは難しい。

- ・ソーラーパネルの枚数に対し、どの程度雇用が生まれるか把握しているか？

（市長）まだわからない。事業者の提案を受けた段階であり、まだ具体的になにをやる、と決めたわけではない。メガソーラーは手段。地域の経済をどうやってまわしていくかを考えている。ぜひお力添えをいただきたい。

- ・堤防の維持管理については特に話は出ていないのか？

（市長）事業者が維持する話にはならない。市あるいは県あるいは国が維持をするものと認識している。今、国や県に引き取ってもらえるよう相談していきたい。

- ・中に施設があって、堤防が切れてすべてがだめになるようなことのないように。

（市長）ふつうの地震なら崩れることはないが、ものすごく大きな地震に耐えられるかどうかわからない。ただ、東日本大震災でも大きな堤防が崩れ去ったことから、そのような地震に耐えられる堤防をつくることは現実的ではない。市が大きな負担をしなくてもいいように交渉をしていく。国にもお願いに行っている。

- ・消防署の前に立派な道路ができている。本庄交差点から尾張に向かう細い道はどうするのか？

（市長）ブルーラインの下からバイパス道路を通す予定だった。昨年、予定し

ていた道に灌漑用パイプラインが埋まっていること、パイプラインが交通量に耐えられないことがわかったこと、移設する費用が莫大にかかることがわかったことから、別の道を考えている。現在の佐井田の道路を広げることは難しい。

・ **錦海の賃借料の話があったが、固定資産税はいくらくらいになるか。賃借料の4億円は市の行政に何でも使えるのか？**

(市長) 評価額の1.4%程度。ただし交付税が75%減額になるため、実質的に25%くらいしか増えない。賃借料は全て市の収入になる。ただ賃借料収入は、何でもかんでも使うわけにはいかない。堤防を維持するお金などリスクに備えたりするお金も必要。必要なお金を残して、残りを地域が元気になるための事業にあてたい。事業費が安くなれば賃借料に回してもらえるかもしれないが、あまりバラ色の話をしてもいけないと思っているが、何とか地域にお金が回る仕組みを作りたいと思う。今回の事業者の提案の中で、コンテンツ産業、アニメーションなどを作る会社を誘致する、ということがある。アニメーションはコンピュータを使って作っている = 電力を使う、ということから、メガソーラーと親和性が高い。またコンテンツ産業は小さな事業所が多いので、大きなコンピュータを核に、多くの事業者を誘致したい。IBMがはいっていることのメリットとしては、発電所として管理していく、ということ。ただ単に太陽光パネルを並べているだけではない。並んでいるパネル一つ一つをきちんと管理するシステムを構築し、観光の目玉にしていく。当然管理する以上、雇用が生まれると考えている。管理しない、並べているだけなら雇用は生まれない。地元が活性化するように事業者と調整していきたい。

・ **25万キロワット、原発1基分？**

(市長) 昔の原発であれば1基分。または今の石炭型火力発電所。今の原発は桁が1つ違う。25万キロワットでも瀬戸内市だけでなく、広い地域の電力をまかなうことになる。エネルギーの地産地消をしているまち、ということで、市民が瀬戸内市を誇りに思うようになる。人間らしい暮らしをしつつ、地域を活性化していけるよう、メガソーラーを活用していきたい。

・ **公害が出るか？パネルを何枚も並べれば光害や温度上昇はどうか？環境アセスは行うのか？**

(市長) 周囲への影響について、専門家にも聞いたが、気温上昇など、大きな影響はないと考えている。光については、黒いパネルが鏡のように反射する

とは考えにくいと思う。環境アセスについては、岡山県が、アセスの対象からメガソーラー事業を外す、ということになった。環境アセスはやると3年程度かかる。これが必須となった場合、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の適用を受けられなくなるため、環境アセスの除外もメガソーラーを進めるかどうか判断する材料だった。と言っても、野鳥の会などに入ってもらって、現状を把握し、どうやって自然を残すか考えている。親水公園 100ヘクタール、ものすごい規模の公園である。乱開発と言われないようにがんばっていく。生態系をどう維持していくかはこれから調整が必要。

- ・教育について。昔は、自分の学校に対して誇りを持っていた。邑久魂、というものを持っていた。今は、わがままと価値観の多様化をはき違えているのではないかと思う。みんながバラバラになっているのではないか。教育にももう少し力を入れて、過去の邑久中、邑久高の水準に戻すようにしてほしい。

(市長) 時間がなくて教育の話ができなかったが、学力だけでいうと学年によって違いがある。今年は少し良くなかった。問題は不登校が多いこと。どうテコ入れしていくか教育委員会もがんばっている。不登校を防ぐか、学力をどう伸ばしていくか、いじめの問題も同じ流れだと思う。学校の先生も忙しい中がんばっている。

地域も支援する仕組みをつくっている。地域の人に学校の中に入ってもらう仕組みを去年邑久中に導入した。徐々に子供たちに効果が出ていると報告を受けている。教育は一足飛びにすぐ効果が出るものではないが、学校もやりにくい中でがんばっている。地域の人とふれあう機会があるとないのでは、子どもの教育に大きく違うと思う。地道な取り組みが必要。家庭学習の時間が短いことも課題と認識している。家で勉強しろと言ってもしないので、図書館という学びの場を与えることも必要と思っている。